

社会資本整備における合意形成手法の高度化に関する研究

～ 共通理解の促進と満足度の向上をめざして～

プロジェクトリーダー名：総合技術政策研究センター建設マネジメント研究官 佐藤 浩
技術政策課題：住民参加型の地域マネジメント
サブテーマ：(15)都市・社会資本の整備における地域との合意形成
関係研究部：総合技術政策研究センター、環境研究部、下水道研究部、河川研究部、道路研究部、住宅研究部、都市研究部、沿岸海洋研究部、高度情報化研究センター、危機管理技術研究センター
研究期間(予定)：平成16年度～平成17年度
総研究費(予定)：200百万円

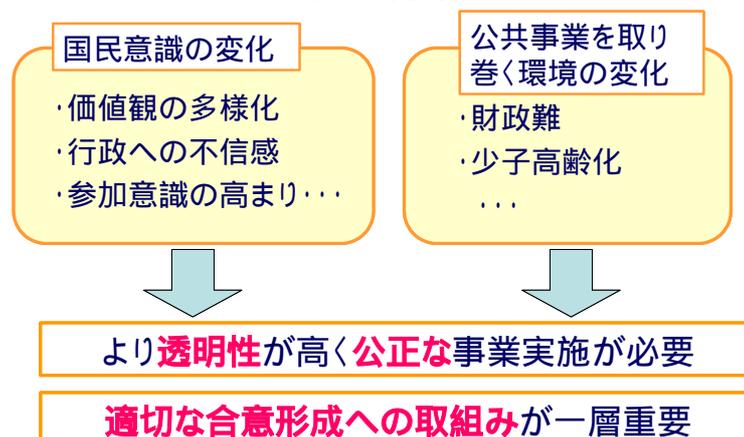
1. 研究の概要

より透明性が高く公正な公共事業の実施が求められている状況下で、一層適切で満足度の高い合意形成システムの構築、実践に資するため、社会資本整備における合意形成プロセスやコミュニケーション技術の検討、合意形成の「知」の共有・活用に関する研究を行う。

2. 研究の背景

我が国の社会資本整備の実施には、財政難や国民意識の多様化等を背景として、より透明性が高く公正な公共事業の実施が求められている。これまで、合意形成に関する実践・研究は各事業主体、各研究部により、事業種別毎に活発に取り組まれているが、系統立った事例の蓄積、事業分野横断的な研究には至っていない。また、第一線においては、合意形成プロセスやコミュニケーション技術等に関わる知識、経験、技術は個人やチーム(事務所の課レベル)に依存し、担当者の苦労が大きい。したがって、合意形成をさらに進化させるためには、個々のノウハウの蓄積・共有化を通じた共通的な合意形成技術の活用が必要である。

社会背景



合意形成，意思決定プロセスの変革

- ◆ **都市計画法改正(1968)**
都市計画法決定手続きにおける公告・縦覧の導入
- ◆ **環境影響評価実施要綱(閣議決定)(1984)**
- ◆ **環境アセス法成立(1997)**
- ◆ **河川法改正(1997)**
河川整備計画策定における住民意見の反映
- ◆ **道路計画合意形成研究会の提言(2001)**
構想段階におけるPIプロセスの導入
- ◆ **市民参画型道路計画プロセスのガイドライン(2002)**
構想段階における市民参画の実施
- ◆ **国土交通省公共事業コスト構造改革プログラム(2003)**
事業のスピードアップ
- ◆ **国土交通省所管公共事業の構想段階における住民参加
手続きガイドライン(2003)**

← **合意形成の
重要性の
高まりを反映**

国総研における多様な合意形成研究の取り組み状況

研究室名	プロセス	コミュニ ケーション	研究テーマ
道路環境研			戦略的環境アセスに関する調査 他
下水処理研			下水高度処理の評価手法に関する調査
ダム研			河川整備における合意形成手法に関する調査
道路研			市民参画型道路計画プロセスの検討
道路空間高度化研			コミュニティ道路整備プロセスの検討
住宅計画研			マンション建て替えに向けた合意形成に関する研究
都市計画研			都市マスタープランにみる合意形成
建設経済研・都市計画研			「まちづくりにおける防災評価・対策技術の開発」における 意思決定支援手法に関する取り組み 他
沿岸防災研			別府港海岸における情報公開・住民参加状況
沿岸域システム研			海面処分場の受容性分析に関する研究
空港ターミナル研			空港における合意形成に関する調査
住宅情報システム研			仮想現実とネットワークを用いたまちづくり・コミュニケー ション・システムの技術開発
水害研			合意形成に関する研究
住環境計画研			居住地選択時における住環境参考指標に関する検討調査
建設マネジメント技術研			インターネットを活用した公共事業に対する付与情報量と 国民意識に関する調査 他

研究の背景(課題認識)



各事業主体、各研究部では、対象事業の合意形成に関する実践・研究に活発に取り組んでいるものの、系統立った事例の蓄積、事業分野横断的な研究には至っていない。



第一線においては、合意形成プロセスやコミュニケーション技術等に関する知識、経験、技術は個人やチーム(事業所の課レベル)に依存し、担当者の苦労が大きい。

プロジェクト研究の目的



多分野にわたる研究室の連携を図りつつ、事業分野横断的な研究を行うことによって、事業の特性や状況に応じて、各事業分野に共通するような合意形成プロセスやコミュニケーション技術を提案する。



合意形成に関する全国の幅広い事業分野の事例から得られる創意工夫などの「知」を蓄積・共有化し活用するシステムを構築する。それにより新たな創意工夫が生み出される。

3. 内容

3.1 研究の成果目標（アウトプット目標）

状況対応型合意形成プロセスの提案

事業種別毎に法制度が異なること等から、合意形成プロセス（どのような体制と役割分担の下で、いつ、誰と、どのような情報を共有しつつ、次のステップに進んでいくのか等）は事業毎に形づくられて来ており、研究においても事業種別毎に行われることが多かった。そこで合意形成プロセスの更なる改善のために、様々な事業での創意工夫の取り組み・苦労してきたことを分析して、事業種別だけではなく、事業規模等の事業特性や都市部・地方部といった地域特性等の事業分野横断的な観点から分析を進め、共通パターンの合意形成プロセスを見出し、提案を行うものである。

コミュニケーション技術の体系的整理等

コミュニケーション技術（ニーズの把握における様々なアンケート手法、情報共有におけるメディアの活用方法、協働活動におけるワークショップ手法等）についても、事業種別毎に多種多様なツールについて実践や研究が行われている。しかし、事業分野横断的に共有化して活用できるような体系的整理はなされていない。今後は、事業の特性、地域の実情、合意形成の段階などに応じて、一層適切なツールの選択・組み合わせとその活用が求められる中で、このような体系的整理は極めて有効である。そこで、既存の研究や第一線での取り組みを事業分野横断的な観点から分析し、各コミュニケーション技術の得失等を体系的に整理していく。また、合意形成に携わる者の資質向上に向けて、コミュニケーション技術習得手法についても検討し、提案を行う。

合意形成に関する知識共有システムの構築

社会資本整備の合意形成に関する知識や経験はこれまで体系的な蓄積がなされていなかった。そこで、第一線における合意形成の実践と更なる創意工夫を支援するために、全国の事例や研究成果を系統立てて蓄積し、効率よく検索活用できるデータベースの構築とその運用体制・仕組みづくり、合意形成の実施時における留意事項集の作成等、合意形成に関する知識や経験を蓄積・活用するシステム（知識共有システム）を構築する。

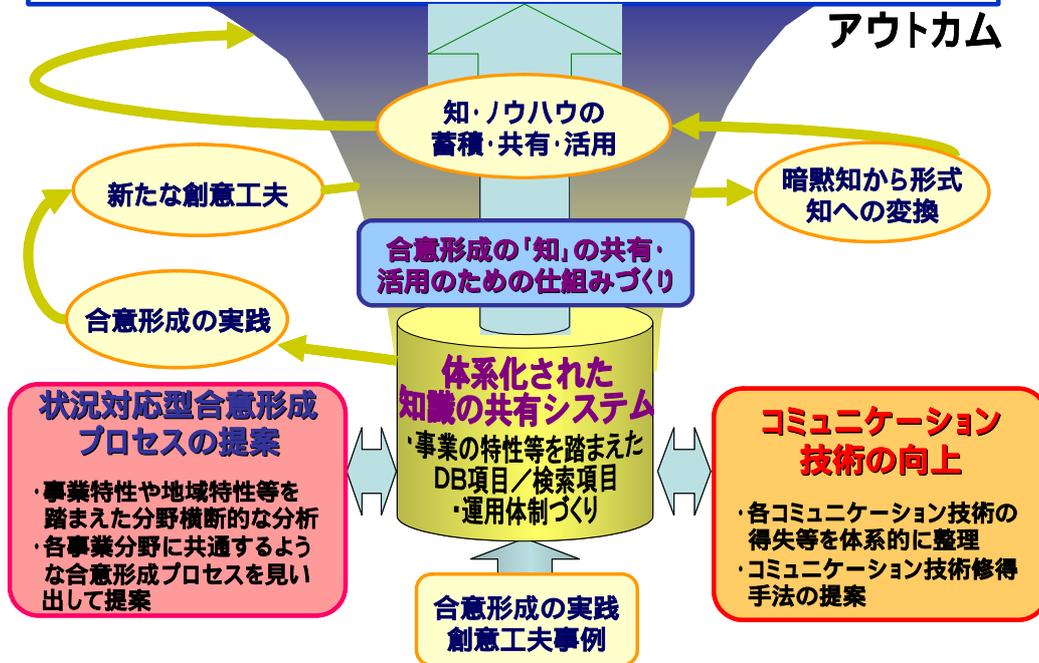
3.2 研究の成果の活用方針（アウトカム目標）

第一線の担当者が、知識共有システムに蓄積された全国の幅広い事業分野の事例から得られたノウハウ等の情報の活用が可能となり、合意形成の実践を通じ、更なる創意工夫が生み出される。生み出された創意工夫の経験は、個人の経験（暗黙知）を他の人が見てわかる形式に（形式知化）することにより、知識共有システムにフィードバックされる。このようなサイクルを繰り返すことにより、スパイラルアップしていく知の創造システムが構築されていく。

これにより社会資本整備における合意形成の円滑化や満足度の向上が図られる。

研究成果の活用方針(アウトカム目標)

社会資本整備における合意形成の円滑化, 満足度の向上

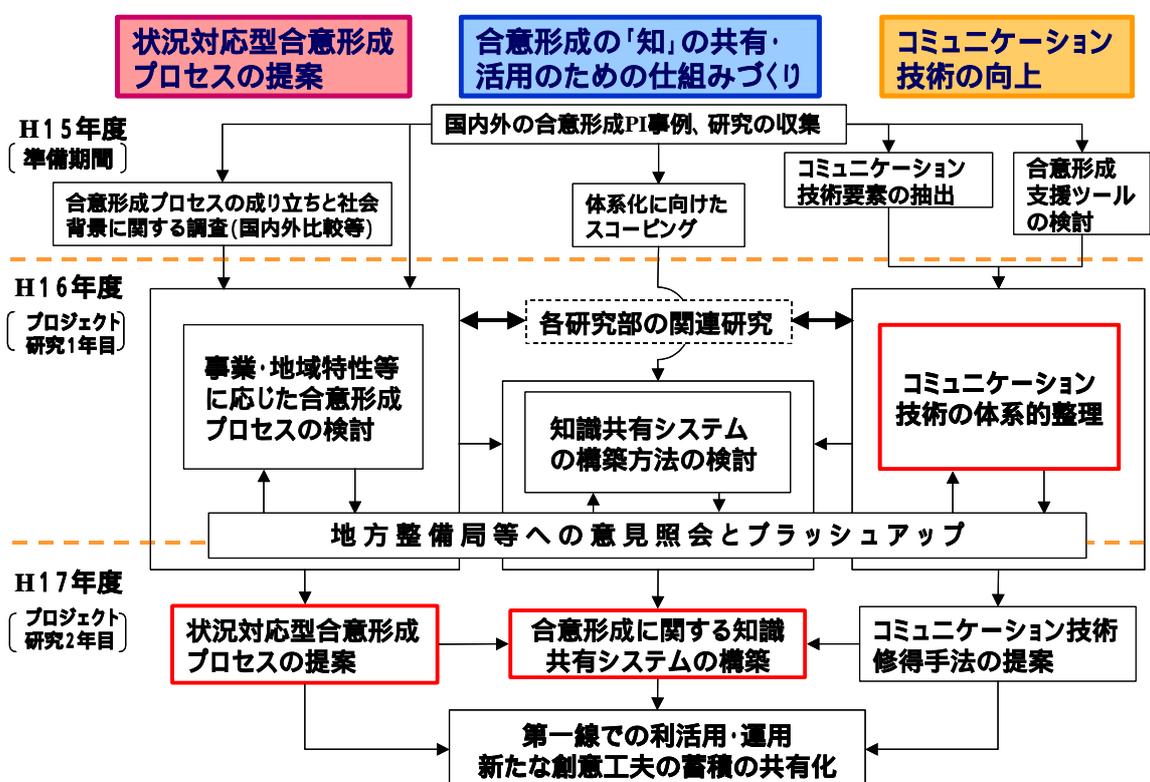


3.3 研究内容、年度計画

- ・平成15年度においては、プロジェクト研究の準備期間として、従来から研究として取り組んできている合意形成プロセスとコミュニケーション技術に関する研究、および知識共有システムの構築イメージ整理を行うため、国内外の事例等をもとに、網羅的かつ体系的にスコーピングを行う。
- ・平成16年度においては、合意形成プロセスに関して、各研究部の研究成果を反映・活用しつつ、様々な事業での創意工夫の取り組み・苦労してきたことについて、事業種別に限らず、地域特性や事業・施策特性等の事業分野横断的な観点から分析を進め、共通パター的な合意形成プロセスの検討を進める。
コミュニケーション技術についても、各研究部の研究成果を反映・活用しつつ、コミュニケーション技術の一層適切な技術の選択・活用が図れることを目的とし、既存の研究や第一線での取り組みの事業分野横断的な分析を通じて、各コミュニケーション技術を体系的に整理する。
また、合意形成に関するノウハウや知識の利活用を目的とした知識共有システムの構築方法の検討を行う。
- ・平成17年度においては、合意形成プロセスに関して、前年の研究を引き続き行い、状況対応型合意形成プロセスの提案に向けた検討を行う。
また、コミュニケーション技術に関しては、前年の研究結果をふまえ、効果的なコミュニケーション技術の習得手法に関する検討を行う。

「知」の共有・活用のための仕組みづくりに関しては、第一線での実践への円滑な利活用・運用を目的とした合意形成に関する知識共有システムの構築を行うとともに、継続的な利活用が図られるような運用体制・仕組みづくりを進め、合意形成実施時における留意事項集を作成する。その際に、失敗事例も有用な情報であることから、可能な限り失敗による教訓を反映できるようあわせて検討する。

なお、これらの検討を行うに当たり、地方整備局等への意見照会を通じたブラッシュアップを図る。また、構築したシステムは、プロジェクト研究期間後も新たな創意工夫の蓄積、フィードバックシステムとして継続的な運用を行っていく予定である。



各研究部が行う関連研究のうち、プロセスやコミュニケーション技術に関する研究成果をプロジェクト研究に反映・活用する。

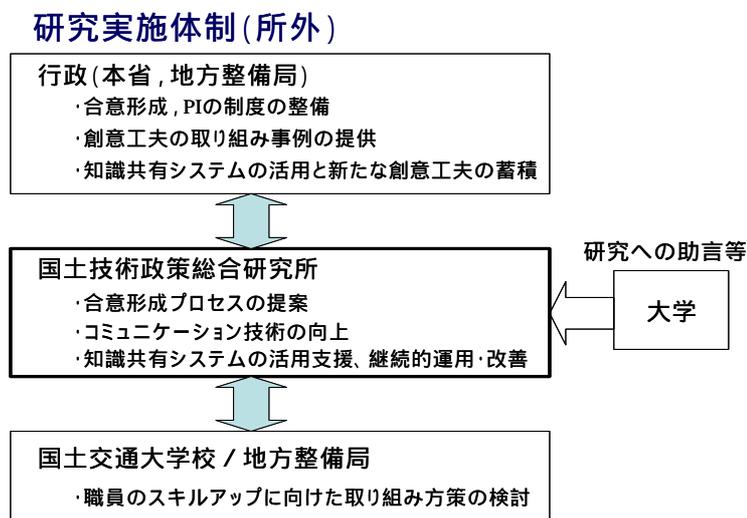
3.4 研究実施体制

(1) 所内研究実施体制

- ・総合技術政策研究センター建設マネジメント技術研究室は、全体とりまとめ、および状況対応型合意形成プロセスの提案、コミュニケーション技術の向上に関する検討、合意形成の「知」の共有・活用のための仕組みづくりを行う。また、その運用を通じて継続的な知識共有システムの改善を行う。
- ・各研究部（環境研究部、下水道研究部、河川研究部、道路研究部、住宅研究部、都市研究部、沿岸海洋研究部、高度情報化研究センター、危機管理技術研究センター）は、それぞれの対象分野における合意形成プロセス、コミュニケーション技術に関する検討を行うとともに、合意形成に関する知識共有システムへの研究成果を提供していく。一方、構築された知識共有システムを活用し、各研究へ反映していくとともに、第一線への助言の実施、さらにはこうした運用を通じてシステム改善支援等を行っていく。

(2) 所外研究実施体制

- ・本省とは合意形成やPIに関する制度の整備について、地方整備局とは創意工夫の取り組み事例の提供と構築された知識共有システムの活用による更なる創意工夫の創出・蓄積について連携を図る。
- ・国土交通大学校、地方整備局とは、コミュニケーション技術等の習得を目的とした人材育成について、連携しながら検討を行う。
- ・大学からは研究についての助言等をいただく。



4. 関連研究の状況

- ・理論、基礎研究および海外制度や個別事例に関する現状把握、現状分析は、ある程度研究が進んでいるものの、それらの経験や知識を蓄積し、新たな活用を支援する仕組みが不十分であるため、本プロジェクト研究において、合意形成の「知」の共有・活用のための仕組みづくりを行う。
- ・事業や施策の分野別に個別に検討が進められているが、分野横断的な検討が不十分であるため、各研究部の連携を図りつつ、合意形成に関する総合的、横断的な検討を行う。

「社会資本整備における合意形成手法の高度化に関する研究

～ 共通理解の促進と満足度の向上をめざして～ 研究マップ

研究課題名

A. 状況対応型合意形成プロセスの提案

- 課題 地域特性に応じた合意形成プロセスの検討
- 課題 事業・施策特性に応じた合意形成プロセスの検討
- 課題 戦略的環境アセスメントにおける合意形成プロセスの検討
- 課題 道路計画プロセスにおける意志決定システムに関する検討
- 課題 地区交通安全対策の合意形成手法に関する検討
- 課題 下水高度処理の合意形成手法の検討
- 課題 マンション再生および災害復興の合意形成に関する検討
- 課題 海辺づくりにおけるコミュニケーション型事業実施に関する研究

B. コミュニケーション技術の向上

- 課題 コミュニケーション技術の体系的整理
- 課題 都市・交通における環境施策の社会的受容性向上に関する検討
- 課題 河川整備における合意形成手法に関する検討
- 課題 沿岸域管理のための合意形成手法の検討
- 課題 都市空間計画の策定における合意形成に関する研究
- 課題 まちづくりのためのコミュニケーション・システムの運用と効果整理
- 課題 コミュニケーション技術習得手法の提案

C. 合意形成の「知」の共有・活用のための仕組みづくり

課題 知識共有システムの構築方法の検討

研究課題	研究フェーズ	理論 基礎研究	現状把握	現状分析	実用的研究	知識の普及・活用・支援システムの開発 (知識共有システム)	人材育成	合意形成の実践
	主な実施 (連携者)	大学	大学			国総研	国土交通 大学校	地方整備局
分類			本省 地方整備局	(本省・地方整備局)				地方整備局
プロセス ・制度 ・手順 ・体制 ・対象 等	道路							実践とフィードバック
	河川							
	空港							
	港湾							
	下水道							
	都市							
	住宅							
コミュニケーション技術 ・情報共有 ・意見の把握 ・協働 ・意見集約 等	道路							
	河川							
	空港							
	港湾							
	下水道							
	都市							
	住宅							

- かなり研究が進んでいる研究領域
- いくらか研究が進んでいる研究領域
- ほとんど研究が進んでいない研究領域
- 国総研で過去に取り組んできた研究領域
- 本プロジェクト研究の研究領域
- 関連研究